

SMA SYS 2018



Participant 249
Reader ∞

[記事を読む](#)

～目次～

1ページ

- ・SmaSys2018

2,3ページ

- ・重要文化財クラシックコンサート 2018
- ・田んぼアート稲刈り体験

4,5ページ

- ・高校生と大学生の協働活動
- ・秋のスポーツ大会

6,7ページ

- ・山大ロボコン～理想は現実に～

8,9ページ

- ・電気自動車“1 to P”見学会
- ・GMAP特集

10,11ページ

- ・トビタテ！留学JAPAN

12ページ

- ・取材に協力してくださった方々
- ・今後のお知らせ
- ・編集後記
- ・2018年度工学部新聞部メンバー

Article Deliver

10月11日(木)、12日(金)に第6回国際スマートシステム工学会議(SmaSys2018)が山形大学工学部11号館有機材料システムフロンティアセンター未来ホールで行われました。この国際会議は、有機化学・無機化学・バイオテクノロジー・有機エレクトロニクスを中心とした幅広い分野の研究者を対象に、毎年開催されています。今年は2日間で249名が参加しました。

フロンティア有機材料システム創成フレックス大学院*主催のこの国際会議は、会議のプログラム編成から座長まで学生が中心となって行われます。今年の開会の挨拶は、昨年SmaSys Best Oral Presentation Awardを受賞された大石絵里さんが務めました。

フレックス大学院履修生を含む工学分野の研究者・学生が英語で口頭発表、ポスター発表を行いました。会場内では英語が飛び交い、多くの人が活発に議論をしていました。国際会議で研究発表を行ったという経験は、参加した方々の自信に繋がったと思います。受賞された皆さん、おめでとうございます。

*フロンティア有機材料システム創成フレックス大学院

山形大学が世界に誇る有機エレクトロニクスの研究資源を利用し、その分野のグローバルリーダーの育成を目指す博士前期・後期課程一貫の大学院教育プログラム

SmaSys Best Oral Presentation Award

- ・劉 承穎(リュウ チェンイン)
有機材料システム専攻 M2
フレックス大学院1年
- ・味野 恵子(あじの けいこ)
有機材料システム専攻 M1

SmaSys Best Poster Presentation Award

- ・Rizka Fajriana Putri Ramadhani
(リズカ ファジュリアナ プトリ ラマダニ)
インドネシア 国立イスラム教マラン第二高等学校3年
- ・成澤謙真(なりさわ けんしん) 鶴岡工業高等専門学校
- ・Samiul Basher(バッシュァー サミウル)
機械システム工学専攻 M2



重要文化財クラシックコンサート2018

10月5日(金)、旧米沢高等工業学校本館(重要文化財)にて『重要文化財コンサート2018』が開催されました。このコンサートは「工学部卒業生のホームカミングデーイベント」として毎年開催されているもので、今年で16回目となります。今年度は世界中で演奏活動を行う福田直樹(ふくだなおき)さんを演奏者として迎え、集まった約70人の観客は福田さんが奏でるチェンバロの音色にうっとりとした様子でした。

皆さん、チェンバロという楽器をご存知でしょうか。見た目は小さなピアノのようなこの楽器は14世紀から音楽家によって使用されていたといわれ、ピアノの原型になったものだそうです。ピアノとの構造上の違いは、鍵盤の数と音の出し方です。鍵盤の数はピアノが88個、チェンバロがそれよりも少ない66個で構成されています。また、ピアノはハンマーで弦を叩くのに対し、チェンバロは鳥の羽で弦を引掻くことで音を出します。そのためピアノ以上に弦へのタッチが演奏に影響する繊細な楽器だそうです。当日のコンサートは第一部でバッハ、第二部でモーツァルト作曲のプログラムで構成されました。福田さんによって、このような音楽に関する歴史的背景や楽器の説明を交えながらコンサートは進んでいきました。チェンバロの演奏は当時の貴族の生活には欠かせないものだったそうです。集まった人々は貴族になった気分です。福田さんによる演奏を楽しんでいるようでした。



↑モーツァルトに扮した福田さん



↑チェンバロの鍵盤

福田さんは「由緒あるこの建物で演奏できることを光栄に感じます。チェンバロの音でこの空間を輝かせたい!と、私もワクワクすることができました」と述べました。また、工学部の学生に対して「なんでもトライあるのみです。どんな学問においても信念を持ち、それを貫くことでありたい姿に近づけるはずです」とエールをいただきました。

明治43年に建てられた歴史ある会場で、より間近で生演奏を楽しめるのはこのコンサートならではの。皆さんも来年のコンサートに足を運んでみてはいかがでしょうか。



演奏後は
チェンバロを
弾かせていた
だきました!





田んぼアート稲刈り体験



9月30日(日)に田んぼアートの稲刈り体験が小野川温泉近くの三沢コミュニティセンターで行われました。絵柄は公募による9つの応募作品から選出された「直江兼続400回忌」(作成者：伊藤博昭さん(米沢市))とデビュー10周年を迎える米沢市のマスコットキャラクター「かねたん」でした。当日は台風の接近により天候が心配されましたが、一般参加者、三沢小学校の子供たちをはじめとした多くの人々が参加しました。参加者たちは豊かに実った稲を鎌で刈り、収穫した稲を何本かにまとめて糸で縛った後、乾燥させるために稲架に稲をかける作業を行いました。イベントは終始和やかで楽しそうな雰囲気でした。参加者には特典として、お昼に芋煮とおにぎりが振舞われ、また小野川温泉入浴券や収穫したお米などもプレゼントされました。

稲刈りまでの様子



稲刈り体験ツアーに参加していた
福村光生さん(システム創成工学科1年)へのインタビュー

・参加したきっかけは？

友人が春に行われた田んぼアートの田植え体験に参加し、楽しかったという感想を聞きました。是非体験してみたいと思っていたところ、ちょうど自身が所属するAccel Link米沢でボランティアの募集がかけられ参加することにしました。

・今回参加してみたの感想を教えてください

稲刈りは小学校の頃に一度経験したのみでほとんど忘れていましたが、久々にやってみると大変でした。こんなに人と時間をかけても田んぼ一面の稲刈りの作業が全て終わらないという現状があり、大変の一言につきました。特に杭を立てる作業は、大型機械を使う今でさえも苦勞しますが、昔の人はこれを自力でやっていたと思うと改めて凄いなと思いました。

・作業してみて大変だったことは？

稲を何本かまとめて縛る作業が大変でした。根元から10cmほどの位置でしっかり縛らないと、バランスが崩れて途中で稲が落ちてしまうので注意しないといけませんでした。また、小学生も参加していたのでスタッフとして稲がしっかりと縛れているか確認し、調整する必要がありました。

・最後に振り返ってみてどうでしたか？

今回スタッフとして参加したことで多くの人々と交流できました。なかでも福島からきたボランティアや米沢市役所の方などと話す機会もあり、自身にとって大変貴重な経験になりました。

高校生と大学生の協働活動

1月13日(日)、「高校生と大学生との協働活動」が工学部百周年記念会館で開催されました。山形県内の高校生と山形県出身の山大生、そして山形大学教員と山形教育庁の職員が参加し、地域の問題・課題について考えました。この活動は山形・鶴岡キャンパスでも開催されています。

米沢キャンパスでは立花和宏先生がファシリテータを務め、今回の活動を楽しむためにTRPG (Table talk Role Playing Game) 「ヤマグアタ」を作成しました。

立花先生「目的は楽しんでもらうこと！」



TRPG 「ヤマグアタ」 あらすじ

地域の問題に直面し、将来に不安を抱えるハルノリに出会いが訪れる。彼らは2020年夏のトキョーオリンピックを地域の活性化につなげようと前向きに取り組んでいた。ハルノリは、最初乗り気でなかったものの、無邪気に厚く夢を語る彼らに背中を押されて新しい取り組みへの一歩を踏み出す。公共交通などの山積する課題を、都会を見聞した知識を活用して切り抜け、局面ごとにでしゃばる老害を論破し、ついにハルノリは地域の仲間とともに新しい条例の提案にこぎつける。そしてハルノリはヨシコとともに幸せな生活を手に入れる。

大学生は主人公ハルノリ、高校生はハルノリの仲間である学生や留学生店長など様々な役になり、全7エピソードの中で、地域の少子化や公共交通等の課題に取り組み、最終的に新しい条例の提案をしていきます。各エピソードには調査、発言、老害役の教員の方々とのディベートの時間が含まれています。



高校生と大学生は調査や発言の時間で、現状の課題や新たな地域の魅力などを発見し、地域活性化のためのアイデアを次々に生み出していました。その後の教員の方々とのディベートでは、ここまでに出た意見に対する反論を受け、その解決策を考えました。各エピソードでの問題はどれも非常に難しいものでしたが、高校生と大学生は力を合わせて、課題解決にあきらめずに取り組んでいました。

～高校生の感想～

- 最初は堅苦しい感じなのかなと思いましたが、TRPG形式で楽しく山形のことを知ることができ、とてもいい経験になりました。
- 役になりきって、様々な立場からの視点で課題について考えることが、新鮮で面白く感じました。
- 普段、ゲーム形式で課題に対する解決策を考えるようなことはないのですが、貴重な経験になりました。今日の経験を活かして、将来の仕事などを考えていきたいと思います。





秋のスポーツ大会

12月9日(日)、山形大学生協学生委員OH, ONE! ?米沢主催の『秋のスポーツ大会』が山形大学工学部体育館で開催されました。毎年2回、春と秋に開催されている本大会の今回の種目は“バレーボール”！当日は寒波の影響による大雪で一段と冷え込んでいましたが、優勝を目指して10チームが出場し、寒さに負けない熱い戦いが繰り広げられました。



優勝した「祈祷の力」チームは、大学バレー部の元メンバーで1年ぶりにバレーをしようと今回結成したそうで、チームメンバーの斎藤嵐土さん(情報科学科4年)は「久しぶりに参加しましたが、優勝できてよかったです」と嬉しそうに話してくれました。

試合終了後には閉会式が行われ、1位～3位のチームには冬にちなんだ“鍋セット”が贈呈されました。春のスポーツ大会でも、その季節にちなんだ景品を用意しているそうです！

決勝トーナメントの結果

1位 祈祷の力



2位 TT



3位 化バイで底いあ応化



4位 たまごかけごはん



気温が急激に下がるこの季節、寒いとどうしても体を動かす機会が減ってしまいますよね。秋のスポーツ大会には『運動することで体をメンテナンスするきっかけとなってほしい』、『スポーツを通して仲間との絆を確認できるいい機会になってほしい』という願いが込められています。また、種目は事前のアンケートで決められ、食堂に設置されるQRコードから回答することができます。自分のやりたいスポーツを種目にできるかも！？といった点も、このスポーツ大会の魅力ですね。次回、『春のスポーツ大会』は来年の5月中旬に開催予定です。

ぜひ、参加してみたいはいかがでしょうか？

山大ロボコン ～理想は現実に～

1月18日(金)に、山形大学工学部ものづくりセンターA棟で、第9回山形大学学生ロボティクス・メカトロニクスコンテスト、通称『山大ロボコン』が開催され、工学部3年生を中心に計7チームが出場しました。山大ロボコンとは、『ものづくり』に情熱を持って取り組むことを目的とし、学生自身が製作したロボットを実演やプレゼンテーションで紹介するというコンテストです。一般に開催されているロボコンとは異なり、テーマや制限がないフリースタイルであることが特徴で、柔軟な発想から生まれた思い思いのロボットを披露することができます！

アイデアや技術、実演内容や完成度、発表のわかりやすさなどを基準として、3名の審査員により評価され、最優秀賞、優秀賞、奨励賞、努力賞を各1チームが受賞しました。



↑コンテストの様子

今年も非常に完成度が高く、趣向を凝らしたロボットばかり！私も1台欲しいなーと思いながら、楽しませて頂きました。山大ロボコンは毎年開催されており、入場は無料です。次回はあなたも参加してみたいはいかがでしょう？

最優秀賞

チーム名：妻木研究室 グラスロックチーム

【概要】

お酒を飲みすぎてダウン…という経験はありますか？飲みすぎを防止できるのがこの『グラスロック』。グラスの重さから割り出した飲酒量やアルコール度数をもとに血中アルコール濃度を算出する装置です。そしてなんと、基準値以上の量を飲酒してしまうと、グラスがロック！！ロックされると数時間は解除されないのだとか。これなら楽しくお酒が飲めそうですね♪

【インタビュー】

Q1.最優秀賞を取った今の気持ちは？

A1.まさか取れるとは思っていなかったのが驚きました！製作期間が短かったのでとにかくたくさんアイデアを出しました。結構迷走していましたね。

Q2.大変だったところは？

A2.ロックする機能をどうするかというところですね。この形状を3Dプリンターで作るのが難しかったです。また、センサーや配線などの部品を装置の中に全て詰め込むことも大変でした。

Q3.プログラムに関しては？

A3.実は、前日にプログラムを書き換えました。アルコール度数の変更プログラムが予定と違ったことに気づいて、そのままいか直すか葛藤しましたが、実演を終えた今では、頑張っただけよかったと思っています。

Q4.この装置の好きなところはありますか？

A4.プログラムの都合上、ディスプレイに表示できる文字がカタカナや簡単な記号のみなのですが、そこが逆にお気に入りです。手作り感が出るので！

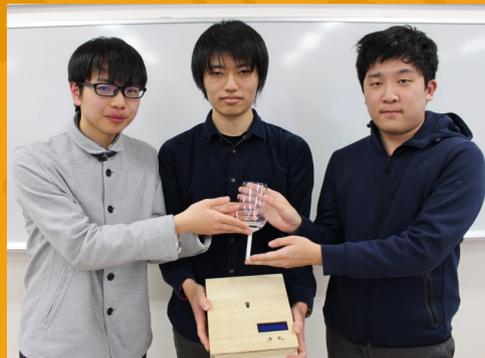
Q5.今後の抱負を教えてください。

A5.このロボットを作った経験や学んだ技術を活かして、次のロボットに繋げていきたいです。



3-60%まで選べるよ！

グラスロック
60%



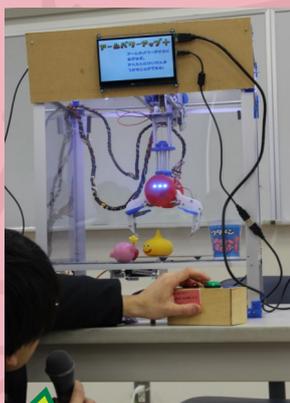
優秀賞

チーム名：ロボタス代表(ロボタスティクス)

【概要】

UFOキャッチャーが好きすぎて自作！？こちら『UFOキャッチャー☆ABERRANT☆』です。実はこの装置のプロトタイプが昨年の吾妻祭で展示されていました。そのときの問題点をもとに改良を重ねたそうです。

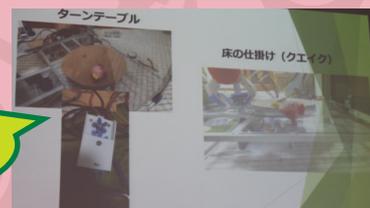
プレイ中には音楽が流れ、まるでゲームセンターにいるようでした。そしてなんと、ルーレット機能も搭載！結果に応じて、GETしやすくなったりならなかったり？実演では、『アームパワーアップ+』の仕掛けが選ばれました！見事スライムをGETできました♪ぜひお試しあれ！



スライムGET!!

狙いを定めて…

仕掛けは10種類もあるよ！



奨励賞

チーム名：洗濯物乾燥通知アプリチーム(妻木研究室)

【概要】

洗濯したい服がいっぱい！次の洗濯をしたいけど、この服いつ乾かな…という悩みを解決してくれるのが『洗濯物乾燥通知アプリ』！物干し竿に取り付けた圧力センサが重さを計測し、洗濯物が乾いたら教えてくれます。気温や湿度の条件も評価すれば、より便利になりそうですね！

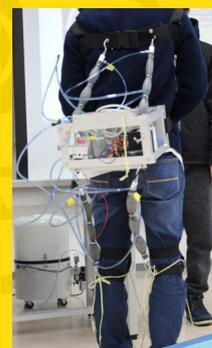


努力賞

チーム名：戸森研

【概要】

近年は高齢化が進み、介護士の足腰の負担は増加の一途…。介護士の腰のサポートになればという思いから開発されたのが『人工筋肉を用いたアシストスーツ』です。このスーツの人工筋肉の収縮によって腰の



起き上がりを補助できます。この装置がもっと軽量化されれば、実用化待ったなし！



起き上がりを補助できます。この装置がもっと軽量化されれば、実用化待ったなし！

らくらく～♪♪

チーム名：安原研究室 3年生

【概要】

散らかりがちな衣服をなんとかしたいという思いから開発された『自動洗濯物折りたたみ装置』。温湿度センサーに衣服を触れさせて、乾いていたら自動で折りたたんでくれます。現在は半袖1枚のみに対応していますが、様々な衣服を複数たためたらかなりの時短ですね！



パタンパタン！

チーム名：多田隈研究室A

【概要】

こちらは水道管を点検するための『伸縮型管内探索ロボット』です。タイヤの形状にまでこだわり、狭い管内を移動可能に！スピードは2段階設定されているため、カメラを搭載すれば、より細かく管内を点検できますね！



狭くても平気！カタンカタン♪

チーム名：多田隈研究室B

【概要】

こちらは、狭い管内の調査に特化した『管内探索ロボット』です。搭載されたガイド部分で方向を修正しながら走行し、90°のカーブでも曲がることが可能！継ぎ目のある管でも走行できれば、容易に探索できますね！



90°も余裕！すい～すい～♪

新素材「しなやかタフポリマー」を活用した電気自動車

I to P

アイトップ

10月25日(木)、26日(金)の2日間、新素材「しなやかタフポリマー」を活用したコンセプトカー「I to P」(アイトップ)の見学会が工学部百周年記念会館で開催されました。9月28日に公開されたばかりの本コンセプトカー、大学での公開は山形大学が初めてという事もあり、当日は多くの人で賑わいました。

“I to P”は、“Iron to Polymer”の略称で、車の主原料である金属をポリマーに置き換えた電気自動車です。従来の車に比べて、ポリマーの使用率はなんと約4倍！この素材として用いられているのが、山形大学が研究開発に関わった新素材「しなやかタフポリマー」です。その名の通り、軽くて丈夫な特徴を持つこのポリマーを使用することで、従来の車に比べて約40%の軽量化に成功しました。これによって、製造および10万km走行後の温室効果ガスの排出量は従来のエンジン車と比べて13.7%減少する可能性が見込まれています。よりいっそう環境にやさしくなった電気自動車、今後の活躍が楽しみです！



運転席



なんと
タッチパネル
で操作!!!

走行時



内装には有機ELを使用



フロント部分



スマホで簡単操作



ポリマー材料の最先端技術が集まった山形大学のGMAPを取材しました！

GMAP *Research Center for Green Material and Advanced Processing*

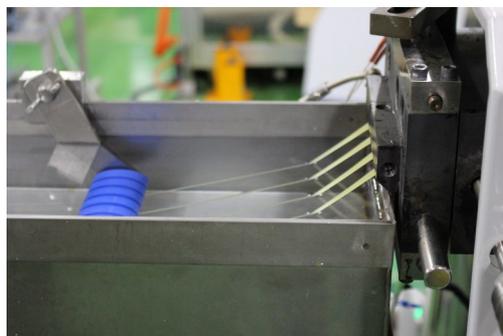
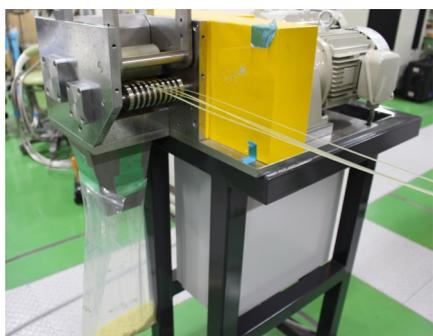
GMAPとは？

山形大学には有機材料分野の研究施設が6施設8センターあり、基礎研究や応用開発、製品試作、製品評価、実証試験の役割をそれぞれの施設が担っています。GMAPは製品の試作を行い、日本で唯一のプラスチックの成形加工に特化した建物です。



見学に行ってきました！

GMAP 1階にある高機能プラスチック開発室にて射出成形機を見せていただきました。この装置では2種類の異なる原料ペレットを混ぜ熱で溶融したあと、流水で冷却固化してポリマー材料を作ります。この時、回転するスクリーによってペレットは混ぜられ、溶融されますが、このスクリーを2本装備した装置が一般的です。しかし、ここGMAPにある装置はスクリーがなんと8本！より混ぜりやすくなることで、高い精度のポリマー材料を作ることが可能になりました。ちなみに、スクリーを8本装備したこの装置は、なんと国内で唯一GMAPにしかないそうです。



ポリマー材料の応用

電子・情報、自動車や医療・生体、環境分野まで、ポリマー材料の用途は多岐にわたります。そのため、例えば「ナノ加工を表面に施してハスの葉のような撥水性を持つ材料」や「回折格子をつけてCDの裏側のような光学特性を持つ材料」といった様々な特性を持つ材料が開発されています。身近なところでは、車のブランドを表すエンブレム。金属のように見えて、実は金属のメッキをしたプラスチックです。本物の金属のような高級感を持たせるために、多くの試行錯誤があったそうです。また、最近は3Dプリンター用の材料開発も進んでいます。ガラス繊維やゲルなどの素材を用いた加工も可能となり、3Dプリンターで作成可能な製品の種類がどんどん広がってきています。

身の回りの様々なモノに活用されているポリマー材料には、沢山の技術と可能性が詰まっているのですね！

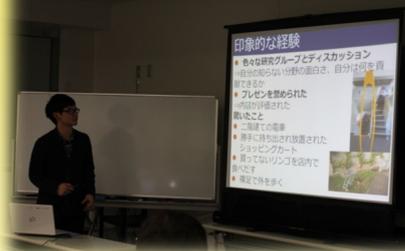




トビタテ！留学JAPAN



12月11日(火)にトビタテ!留学JAPAN「地域人材コース」で留学等を経験した6名の学生による報告会が米沢キャンパスで開催されました。報告会には、支援を行った企業の方々や留学に興味のある学生など約20名が参加しました。各学生が国内外のインターン先での体験談や留学で学んだことなどを報告していました。留学した学生の方にインタビューしてきました！



《新海 貴史さん(有機材料システム専攻 M2)》

国内インターンシップ：日本刃物株式会社（山形県米沢市）

海外インターンシップ：PENTACON GmbH（ドイツ、ドレスデン）

☆留学に興味をもった理由・留学しようと思ったきっかけについて教えてください

親が単身赴任で海外に在住しており、もともと海外には興味がありました。そして春からの就職活動でどの企業においても海外研修があることを知り、練習もかねて今のうちに海外に行きたいと思っていました。ちょうどそのタイミングでトビタテ留学について全国版を目指している後輩から話を聞きました。山形に6年間住んで愛着が湧いたこともあって今回地域版に応募しました。



☆留学に行ってみて感じたことは？

日本と海外企業の『働き方』に違いを感じました。ドイツは、働き方改革が日本よりも進んでいます。残業がないだけでなく、金曜日はいつもより1時間早く退勤できます。また、日本は朝にラジオ体操をしてから朝礼をすると思いますが、ドイツではまず全員で朝食を食べてから仕事に行きます。一方で、日本のサービスの良さも感じました。ドイツで2000円の夜行バスのチケットをウェブで購入していましたが、夜行バスに乗車しようしたら突然キャンセルされてしまい、駅で一泊過ごしたこともありました。



☆楽しかったこと・大変だったこと

ドイツの食に関して、ビールが安くて美味しかったのには感動しましたが、量が多く、脂が多い食事は辛かったです。もともと旅行は好きでしたが、ヨーロッパは初めてだったので、見るものすべてが目新しく綺麗なものばかりでした。一方で、英語が苦手だったことに加えて、ドイツの企業は休暇が長く、返信が遅かったので企業とのメールのやりとりは大変でした。

《菅家 由佳さん (電気電子工学科 B3)》

国内インターンシップ：フジクラ電装株式会社（山形県米沢市）

海外インターンシップ：Fujikura Automotive Vietnam Ltd.（ベトナム、ダナン）

★留学に興味をもった理由・留学しようと思ったきっかけについて教えてください

私は海外経験がなく、もともと挑戦するタイプではありませんでしたが、海外に勉強しに行った友人や先輩の話を聞いて一度挑戦してみたいと思いました。このプログラムは海外留学に行くだけではなく、自分の専門に関連する企業でインターンシップに参加できるので、将来に繋がる経験になると思い、応募しました。



★楽しかったこと・大変だったこと

工学部出身ということもあり、機械が動いている様子を見るのが楽しかったです。行った先々で美味しい物を食べられたことも嬉しかったですね。選考段階での応募書類は期日が近く、書く内容が多かった為、大変でコーディネーターの方に添削してもらいました。

★留学前に何をしましたか？

ベトナムについて軽く調べていました。また、国内研修でやった内容を忘れないようにノートに軽くまとめていました。



★留学に行ってみて感じたことは？

BtoBの企業は受注生産のため、納期内での生産やクレーム対応などのなかで顧客と信頼関係を築いていることを知りました。クレーム対応では、短期間で問題点を調査し、その結果を踏まえた修正点について書類を作成するのだそうです。また、今回のインターンシップは将来について考えるきっかけになり、企業で働くのであれば適性も踏まえた上での企業選択をしようと思いました。また、働く環境や施設や機械などの改善活動に関わる仕事に興味も湧いたのも今回の新たな発見でした。

★最後にみなさんにメッセージをお願いします

皆さんも是非、気難しく考えずに挑戦してみてはどうでしょうか。気になった方は気軽に担当の先生に相談してみてください。

■トビタテ留学JAPANとは？

将来、世界で活躍できる人材の育成を目的としている海外留学制度で、返済不要の奨学金を借りることができます。

■トビタテ留学JAPAN「地域人材コース」とは？

このプログラムは、地域活性化に貢献し、地域に定着する意欲のあるグローバル人材の育成を目的としています。海外留学と地域企業等でのインターンシップを組み合わせたプログラムとなっています。

■応募について

応募の際には、国内と海外のインターンシップの計画書を作成する必要があります。また、地域コーディネーターや各大学・キャンパスのサブコーディネーターのアドバイスを受けながら留学計画書を書きます。

興味を持った方は是非、下記に示したURLから詳細をご覧ください！

<https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/international/tobitate/>

取材に協力して下さった方々

※D=博士後期課程、M=博士前期課程、B=学部

学年は今年度のものを掲載しています。

3ページ
ふくむら こうせい
福村 光生さん

システム創生工学科(B1)
(青森県立三本木高校出身)

6ページ
妻木研究室
グラスロックチーム
機械システム工学科(B3)

10ページ
しんかい たかし
新海 貴史さん

有機材料システム専攻(M2)
(愛知県立安城高校出身)

11ページ
かんげ ゆか
菅家 由佳さん

電気電子工学科(B3)
(福島県立会津高校出身)

ご協力ありがとうございました

今後のお知らせ

○上杉雪灯籠まつり

日時：2月9・10日(土・日)

場所：上杉神社

○工学部合同企業説明会

日時：3月1・2・3日(金・土・日)

場所：米沢市営体育館

○学位記授与式

日時：3月21日(木)

場所：米沢市営体育館



編集後記

寒いですね！この雪とももうすぐお別れかと思うとちょっと切ないです…。さて、今回が私にとって最後の新聞です。もうかれこれ10号分の記事を書きました。ロボコンは3年間取材させていただき、とても思い出深いイベントだったので、ラストにふさわしいな—と思いつつ…。工学部新聞を通して、多くの人と関わることができ、貴重な経験をするとともに、素敵で楽しい時間を過ごすことができました！今まで取材に協力して下さった方々、サポートして下さった職員の方々、新聞部メンバー、そしてこれを読んでいるあなた！本当にありがとうございました！！(相馬)

この号で最後となりました、伊東です。約2年間、工学部新聞のための取材を通してエコバザーやオープンキャンパス、学位記授与式など多くの学内イベントに関わらせていただきました。工学部新聞の発行に携わらなければきっと、知らなかったこと、学べなかったこと、たくさんあったと思います…工学部新聞のおかげでより充実した学生生活になりました！読んで下さった方々の学生生活にも生かせるような新聞が発行できていたら嬉しいです。読んで下さった方々、新聞の発行に協力して下さった方々、新聞部メンバー、たくさんの方々に感謝しています。本当にありがとうございました！(伊東)

今回発行の号がラスト新聞になります、清水です。新年明けまして、新聞部も大学も、卒業まであと少しとなりました…！楽しい時間が過ぎていくのは、本当にあっという間ですね。さびしいものです。工学部新聞の編集に携わるようになってから約2年、とても楽しく、そして貴重な経験をいくつもさせていただきました。読者の皆さん、取材に協力して下さった方々、そして工学部新聞部のメンバー、ありがとうございました。(清水)

2018年度工学部新聞部メンバー

- 相馬江利加(バイオ化学工学専攻2年)…新聞部3年目。紙面p6,7の「山大ロボコン～理想は現実～」担当。
- 清水らな(バイオ化学工学専攻2年)…新聞部2年目。紙面p5の「秋のスポーツ大会」、紙面p8の「I to P」担当。
- 伊東莉菜(バイオ化学工学専攻2年)…新聞部2年目。紙面p4の「高校生と大学生の協働活動」担当。
- 高谷百香(バイオ化学工学専攻1年)…新聞部1年目。紙面p3の「田んぼアート稲刈り体験」、紙面p10,11の「トピタテ!留学JAPAN」担当。
- 久原利英子(バイオ化学工学専攻1年)…新聞部1年目。紙面p1の「SmaSys2018」、紙面p9の「Gmap」担当。
- 五十嵐有佳(バイオ化学工学専攻1年)…新聞部1年目。紙面p2の「クラシックコンサート」担当。

♪新聞部に興味のある方は下記の連絡先までお気軽にご連絡を(^o^)/
お待ちしております！

連絡先→tyt63047@st.yamagata-u.ac.jp (代表：高谷)

☆本誌のカラー版がPDFでご覧になれます。山形大学工学部新聞で検索！

ホームページ→<https://www.yz.yamagata-u.ac.jp/special/newspaper/>

☆各種の活動や受賞、表彰などを掲載させていただきます。



2018年度新聞部メンバー ↑